

ニア合成法の優秀なる事を認め世界各国に率先して此特許権を獲得し、硫酸アンモニアの製造を企圖したるに偶々宮崎縣に於ける五ヶ瀬川及び一ツ瀬川の豊富なる水利使用に因る發電權を得たるを以て延岡市に本工場を建設するに至りたり。而して本計劃は豫期の成功を收めしを以て同社は直ちに其水俣工場(熊本縣)を同法の製造装置に改造すると共に之を擴張せり。同工場は昭和六年十一月十六日

畏くも 聖上陛下の行幸を辱うせり。

大正十五年日本窒素肥料株式會社は更に朝鮮窒素肥料株式會社を創立して朝鮮咸鏡南道興南に年産實に四十萬種の本法に依る大肥料工場を建設したり。

當藥品工場は其後アンモニアを酸化する事に依る合成硝酸の製造法を發明し昭和二年四月其硝酸工場を、同六年四月硝酸アンモニア工場を新設したり。(硝酸、硝酸アンモニア及び硫酸は姉妹會社日本窒素火藥株式會社延岡

(4)

工場に供給しつゝあり)又昭和六年五月日本ベンベルグ絹絲株式會社延岡工場(現在のベンベルグ工場)建設せらるゝや同工場に所要のアンモニア及び硫酸を供給し次て同八年七月には人絹製造に必要な苛性曹達の製造を開始しベンベルグ工場及びレーヨン工場に之を供給しつゝあり。尙之に關聯して曹達工場に於て得らるゝ鹽酸を蛋白質に作用せしめてグルタミン酸曹達(調味料)の製造を開始せんとし目下工場建設中なり。斯くて本工場は硫酸アンモニアの製造に出發して漸次人造絹絲の製造に轉向し其間諸方面に亘り化學工業の多角經營を爲しつゝあり。

本工場は其所屬水力發電所と共に昭和六年五月日本窒素肥料株式會社より分離し、延岡アンモニア絹絲株式會社となり三社合併後延岡工場藥品工場と稱するに至れり。

(5)